

# 一般社団法人日本トップリーグ連携機構

## 新5カ年計画

### 1. 背景

感染症のため2021年に延期された日本スポーツ界の一大イベントである東京五輪が終了した。

JTLでも五輪に向けた「2020強化支援プロジェクト」が終了。

コロナ禍をきっかけに新しいスポーツの向き合い方を模索する必要がある。

新しい観戦スタイル(コンテンツの届け方など)の導入などは必須。

企業が競技スポーツを持つ、支える意義の見直しや、その座組を変えていく可能性がある。

### 2. これからの目標設定

リーグ単独で自立していける団体とそうでない団体の格差が広がってきている。

少子高齢化や競技者の減少は進む。今後もこうした問題が山積されている。

経済基盤脆弱、人材(質・量)不足、ノウハウ不足 等

リーグが単体では独自にできない部分を補い、リーグまたスポーツ界共通の問題を  
扱う中でJTLの価値を再度見出す。

### 3. JTLの目的の再確認

定款 第3条 目的

当法人は、日本国内における各トップリーグの**連携**を図り、お互いのリーグ運営を**効率的、効果的**なものにし、**スポーツの社会的評価を高めると共に、国際競技力の向上に資**することを目的とする。

### 4. キーワード

① **連携の強化**

② **女性、女子スポーツへの取り組み**

## 5. ① 連携の強化

- J T L内での連携  
情報、人材等の資源の共有、協働インフラの構築
- スポーツ界の中での連携  
J T Lを飛び出し、スポーツ界全体を巻き込んだ連携を目指す。  
アスリート、指導者、支える人たち（運営、審判等）の地位向上また環境改善、暴力撲滅、フェアプレー（スポーツマンシップ）の推奨。
- スポーツ界の外（企業）との連携  
J T L、リーグと協働する企業やチーム・クラブと協働する企業、企業チーム、スポンサーとしての企業、またそれらの企業とのアクティベーション活動を積極的に推進。
- スポーツ界と他業界、政府、自治体・地域社会との連携  
エンタメ界－E C S A通じアリーナ・スタジアムの活用、協働での運営方法の研究や、エンタメとのコラボレーション。  
自治体・地域社会とスポーツチーム・クラブの連携による相乗効果と地域の活性化。

## ② 女性、女子スポーツへの取り組み

- W A P（Woman Athletes Project）の継続、拡大  
女子スポーツの地位向上を、単体ではなく女子リーグが協働して活動することでその価値の最大化を図る。  
現在 J T L内の団体でスタートするが、女性スポーツ界全体に広げていく。  
協働マーケティングや放映などのコンテンツ事業を模索する。  
企業スポーツとしての運営から大きく舵が切れる仕組み作りに着手する。

## 6. J T Lの組織の見直し

2021年の改選からの2年間、次の改選時（2023年度に開催する最初の総会）までにガバナンスコードを活用し、組織体制の見直しを行う。そのための議論を重ね、規約・規程等の抜本的な整備も含めて実施する。

# 2022～2026年度 JTLの事業について

